

ミヤギシロメ+海鮮

仙台大豆コロッケ 本日デビュー 催しで販売

仙台市産大豆を使ったコロッケが誕生した。市とハンバーガー店「ハリーズジャンクション」(松島町)、食品卸「かね久」(仙台市)が連携して開発。大豆の甘みと海鮮のうま味を詰め込んだ。8日、市内のイベント会場で販売がスタートする。

新商品名は「ハリーズ クラムチャウダーコロッケ」。甘さが特徴の大豆「ミヤギシロメ」を使用し、ハリーズジャンクションの看板商品のクラムチャウダーをイメージ。アサリがたっぷり入っているほか、ホタテとハマグリのエキスを配合した。

8、9日にせんだい農業園芸センター(若林区)で開かれる「せんだい収穫まつり」を皮切りに、ハリーズジャンクションの店舗や仙台市内の姉妹店で10日から提供する。2個で300円。コロッケを使用したバ



仙台市産大豆を使用した「ハリーズ クラムチャウダーコロッケ」

ーガーも950円で販売する。市役所で6日に新商品発表会があり、試食した藤本章副市長は「スープをコロッケに仕上げるのは難しかっただろうが、クリーミーで大豆の甘みを感じた」と感想を述べた。3月に開発に着手し、試行錯誤を重ねた。ハリーズジャンクションの佐藤賢将代表は「コロッケは手にとってもらいやすい。幅広い世代に味わってほしい」と話した。

かね久の遠藤伸太郎社長は「地域の人に地元産の大豆の魅力を知ってもらい、将来的には首都圏に販路を求める『地産外消』につながればうれしい」と意気込んだ。

大豆コロッケの商品化は市産農産物を使った新商品開発事業の一環で、大豆の商品はレトルトパックとジェラートに続き第3弾。

(藤原佳那)



新商品を開発したハリーズジャンクションの佐藤代表(中央)とかね久の遠藤社長(左)

身近な自然 色彩豊かに

仙台・あすまで作品展

身近な自然の風景を描く

「山野のスケッチ会」の作品展が、仙台市青葉区の東北電力グリーンプラザで開

日常を忘れ、風景に浸れる時間がいい」と話した。午前10時〜午後6時(9日は午後4時まで)。入場無料。連絡先は事務局090(2362)7588。

県内10詩人 作品を朗読

子理事長ら県内の会員10人が参加し自作の詩を発表する。前後半に分けて実施し、それぞれの終了後にミニ講演がある。

講演は白鳥省吾記念館(栗原市)の佐藤吉一名誉館長と詩人会の佐々木洋一会長。佐藤館長は省吾の反